

遠藤 暁及 りょうきゆう

危険な道楽、アースキャラバン(7)

東京アースデイで演じた 「異宗教融合チャント」



パチカンから帰国して間もなく、東京アースデイの松尾さんから電話を頂いた。

それは、オープニングの”場開きの祈り”をお願いできないか？ というものだった。そう言えば、昨年にもそんな話を頂いていたな、と思い出した。

その時は、ちょうどナブルス市（パレスチナ自治区）で10日間に亘って行われるフェスティバルに出演することになっていたの、お断りしたのだった。

今回は、“よく分からないけど、まあ地鎮祭みたいなものかな”と思って、いつもながら安請け合いました。（←よくやるんだよなあ）”メインスタッフ10人ぐらいが集まった芝生の上でお経上げる感じかな”思ったのだ。しかし、これは僕の全くの誤解で、メインステージで観客がいる前での出演だったのだ。それなら、皆さんが楽しめるような内容にしなければならぬ。ならば、と和田寺タオサンガ道場のみんなにも来てもらい、「異宗教融合チャント」をやることにした。

「異宗教融合チャント」とは何か？ それは、異なる様々な宗教の人たちが合同でシンクロして行うことができる音楽法要である。そんなことが可能なのか？ と思うかも知れない。しかし、音楽の力は偉大である。それぞれの宗教には、神さまや仏さまの名前等を唱えるマントラがある。例えば、仏教の南無阿彌陀仏（あるいは南無妙法蓮華經）、キリスト教のジーザス・マーシー（イエス様、お慈悲を）、イスラム教のアッラー・インシャラー（神に委ねます）、ユダヤ教のバルフ・ハシム（神さまを讃えます）等々。それぞれ別々の文言だが、これらと同じメロディで唱えることで、美しく調和の取れた響きになるのだ。英語やその他、様々な異なる言語と一緒に唱えることすら可能となる。

実はこれ、現在、タオサンガ和田寺道場で通常、行っている修行形式である。昨年までは、メロディがついていたのは念佛だけだった。それでも、世界各地のアースキャラバンでは、異宗教の人たちが融合するように皆で唱えて来た。

今の最終形式が完成したのは、ごく最近のことである。

それは、バングラデッシュから帰国した今年の一月下旬のことだった、僕は突如として、唱えているお経や文言のすべてにメロディを付けるという作業に取り憑かれた。

それは、まるで果てのないような膨大な作業だった。しかも、この頃の僕は、パチカンのローマ法王謁見を実現させるために追われてもいた。

しかし取り憑かれていた僕は、毎日十数時間も作業を続けた。午前10時にはじめて、翌朝の5時まで、ほぼ休みなくやっていることすらあった。

人間って、こんなに集中が持続するものなのか、とちょっと驚いたが、まあ、文字通り、取り憑かれている、としか言いようがない日々だった。

アースデイの松尾さんから連絡をもらったのは、それが完成して間もなくであった。（なんとそれは、イベントの2週間前であった）これをステージでやるなら、道場の修行者たちは、急ピッチでメロディを覚えて練習しなくてはならない。しかもステージなんだから、ふりを付ける必要もある、と僕は考えた。

結局、イケイケでゴーサインを出し、すべてが信じられないような超スピードの作業になった。

ステージで観客が楽しめるような音楽法要を行うのだから、相当レベルの高いものではないと人前には出せないな、と僕は思った。しかし果たして、1週間や2週間で道場のメンバーがそこまでに成れるのか？

緊迫のパチカン謁見が終わった後、帰りにタイに寄り、つかの間の休暇を楽しんでゆるんだ気持ちなど、ふっとんでしまった。

さらに、スピーチもお願いします、と言われたので、それも考える必要があった。

ちょっと余談になるが、パチカンのオーストリア大使館が、アースキャラバン歓迎の昼食リセプションを開いてくれた。実はその時は、僕もスピーチすることになっていた。

それで、聖書や仏典を引用しながらも、爆笑ものの英語スピーチ原稿を用意していた。

それが、オーストリア大使の手違いでやらずに済んだのだが、心のどこかで、“せっかく生まれて初めてスピーチ原稿まで作ったのになあ”と、ちょっと思っていた。

オーストリア大使は気さくな女性だった。昼食の席上では隣り合ったので、タオ指圧の話をしたら、やたら食いついてきた。それで僕が、“その内、松本の国際道場に音楽念佛しにおいてよ”と、誘ったら、“いつかちゃんと休暇とって絶対行くわよ”と、やたら乗り気だった。

実はアースデイのスピーチは、パチカンの時のリベンジの気持ちがちょっとあって用意したのだ。だが、結局は使わなかった。2、3日前に、スピーチ原稿を用意するなんていうのは、自分にはまったく向いていないということがわかったからだ。

さて、ここで話を戻すことにしよう。道場でやる音楽法要は、最低でも40分かかるといふ膨大なものだ。（全組曲である）アースデイ・ステージの「場開きの祈り」では、この内の1部、8分間バージョンを行った。その映像は、you-tube またはグーグルの動画で「アースデイ東京2019 場開きのいのり」を検索してご覧頂くことができる。

果たして、どの程度のものに仕上がったのか、多くの人から”美しい響きで癒された”等の声をお聞きすることができて、ホッとした。6月中旬からは、アースキャラバン・ヨーロッパが始まる。各地でライブもあるので、バンドごと行って演奏する予定だ。また、ヨーロッパ・タオサンガのメンバーたちを交えて、この「異宗教融合チャント」も、ステージで行う予定だ。現地についたら、また特訓かなあ、、、。

アースキャラバン

NPO 法人アースキャラバン
(京都タオサンガセンター内)
TEL/FAX=075-551-2770



アースキャラバンのサイトにリンクして下さる↓